

第 1 回

鹿角高等学校魅力化ビジョン策定ワークショップ 報告書

日 時	令和 8 年 6 月 24 日（水）18 時 20 分～19 時 30 分
会 場	鹿角市役所 第 1・2 会議室
対象者	鹿角高等学校魅力化ビジョン検討委員会委員 12 人
進 行	一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム 高橋洋平氏
内 容	1. オリエンテーション ○地域・教育魅力化プラットフォームの事業紹介 ・地域みらい留学に取り組む高校は全国 36 道府県で 190 校。年々拡大している。 ・鹿角高校も今年度から地域みらい留学に参画し、8 月に行う「おためし地域留学」には定員を超える 15 名ほどの応募があった。ぜひ地域全体で温かく迎えてほしい。 ・地域みらい留学のサイトでは鹿角高校のページも開設済み。 ・高校魅力化を起点とした人づくりの好循環へと転換する必要がある。高校が魅力的になることで、地域内外から人を呼び込む・教育移住を呼ぶ、社会増につながる。 ・地域・教育魅力化プラットフォームの活動の原点は島根県立隠岐島前高校である。現在代表の岩本氏がコーディネーターとなり、高校と地域との協働体制を構築し、データに基づいた対話（ワークショップ）を重ねた。さらに、学校の外にある地域資源を活かした魅力あるカリキュラムの構築していった。地域課題も教材であるという考え。 ○今回のワークショップのゴール ①鹿角高校を取り巻く現状を理解する ②高校・地域間の相互理解が深まっている ③鹿角高校で育てたい・必要な生徒像（人物像）を考える ④各自の次の一歩が見えている ○高校と地域が一体となり、魅力化に一緒に取り組む必要性 ・文部科学省でも高校の魅力化・特色化を推進しており、学校単独ではなく地域や関係機関と連携する体制の整備が求められている。 ・普通科改革においては地域連携を進めるコーディネーターの配置も重要。 ・私学授業料無償化が開始され、公立高校はより厳しい競争環境下に置

かれている。公立高校だからこそできること、を考えていかなければならない。

- ・「魅力化」「学校改革」「地域連携」は“理想”を実現するための取り組みである。理想と現実のギャップ（課題）を認識し、対話を重ねながら一つずつ解決していくことで、理想を実現させることができる。
- ・協力は関係が7対3、協働は同じ比率。多くの地域や高校で協力関係となっている。ハードルは高いが、協働を目標にしていく。そのためにはお互いのメリットを考えるようにしていくことが大事。

2. 鹿角高校を取り巻く現状共有

○市内進学率

- ・市内中学生の鹿角高校への進学者は4年間平均で141人
- ・市内15歳人口は10年間で半減する見込み。
(令和8年217人→令和18年104人)
- ・現在の60%程度である市内中学生の鹿角高校選択率のまま推移すると、10年後の鹿角高校への市内中学生進学者数は60人台となる。クラス数は2クラスとなってしまう。
- ・市内中学生の選択率や市外流出の実態をデータで確認すると、大館への流出が約20%と特に多い。また、それ以外にも県外や通信制などへ15%ほどが進学している。
- ・一方で、大館から鹿角高校への流入は極めて少ない。
- ・公立高校を取り巻く危機感と改革の必要性を共有

2. ワークショップ

※別紙「全体総括・各グループまとめ」参照

○ルール

- ・立場を忘れ、率直な意見を述べる。
- ・より多くの意見を引き出すため、長すぎず短すぎず発言をする。
- ・理想を語る場である。

○自己紹介

手のひらにある感情線の長い人から順番に自己紹介

- ・所属、名前、今日食べたい夜ご飯

①鹿角高校で育てたい生徒像（黄色の付箋）

- ・育てたい生徒像（理想）を書き出す（3分）
- ・グループ内で自分の意見を発表（3分）
- ・質問、対話、グルーピング（3分）

	②そのために地域・学校ができること（ピンク色の付箋） ・教員、地域ができる具体策を検討し書き出す（3分） ・グループ内で自分の意見を発表しながら貼り出し（3分） ・質問、対話、グルーピング（3分） ○発表 時間の都合上、グループ1とグループ2の2グループが発表 ○まとめ ・今日のゴールへ到達できたか確認。 ・3月に委員を対象としたワークショップを再度実施予定 ・第2回目は中高生を対象として9月に実施予定。委員へも参加を促す。 3. オブザーバーコメント 【鹿角高校今川校長】 ・鹿角高校のためにこんなに盛り上げていただき、ありがたい。 ・今日課題とされたところを持ち帰り、高校でも対策を練っていききたい。 ・進学フェスで、鹿角高校生がどれだけアピールできるかを楽しみにしたい。 ・おためし地域留学で10人ほど来る。その子たちが鹿角市に来て、花輪ばやしなどを体験し、どのようなことを捉えるかによって考えることも変わってくる。 【笹本鹿角市長】 ・各テーブルで笑顔であふれ、盛り上がっていたことを本当に嬉しく思う。真剣に一生懸命考えていただいた。 ・私たちが子供たちにできることは姿勢をしっかりとみせていくことだと思う。10年先、20年先を考えて今から動こうと指示している。 ・そのために、正しいデータを直視しながら、地域のため、子供たちのために何を残せるかを一生懸命考え、行動していく。 ・その姿勢をもって、前向きで包容力のある愛情のあふれた町を作っていきたい。 ・引き続き何ができるかを一緒に考えていきたい。 以上
資 料	・スライド資料「育てたい生徒像に関するワークショップ」

